

「活躍する地域の代協」

都道府県代協レポートリレー

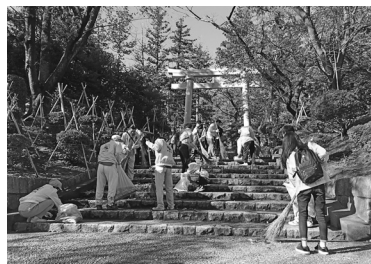
第5回  
新潟県代協

専業の約44%、194店が正会員  
5支部、6委員会で組織される

新潟県代協は、現在194店が正会員として所属し、県内の専業代理店の約44%を占めている。新潟県は東西に約300キロあり、東から新発田、新潟、三条、長岡、上越の5支部の他、6つの委員会が組織されている。

支部活動として特筆すべきは上越支部で、6年前より月1回、正午から1時間程度の例会(ランチミーティング)を継続開催している。保険会社社員を招き商品の勉強、司法書士や税理士を招いての相続や成年後見の勉強、事故車両引取業者による事例研究等、毎回テーマを変えている。会場となる飲食店については会員が当番制で選定し、店主以外の社員の参加も可能で、行ったことがない飲食店に行ける楽しみや会員の若返りが進んだ。当初はそれを負担に感じていたメンバーも徐々になじみ、出席率も高くコミュニケーションが円滑になった。副次的な成果として自動車事故時に代理店同士が月に1回顔を合わせる仲間だからこぞできるスピーディーな連絡や解決等、実際に成果として出ている。

長岡支部では新入会員



弥彦神社の落ち葉掃き

(執筆 山田時代)

や新規会員獲得に向けて独自のPRチラシを作成し精力的に会員拡大に励んでいる。支部長の強力なリーダーシップのもと、メンバーとのつながりが強固になり様々な活動も活性化してきている。三条支部では6月18日の山形新潟地震の後、新潟大学の卜部教授を迎え「新潟地域の地震・津波災害を考える」と題したセミナーを行うなど、近年は防災やBCP等の研修を積極的に行い、会員の研鑽を積んでいる。

でも復興イベントや防災シンポジウム等が開催され、テレビや新聞などでも必ず出る話題である。そして秋には紅葉や菊まつりで有名な弥彦神社の落ち葉掃きを実施、その参道を毎年20〜30名程度で10年以上継続しており、とても清々しく気持ちいい活動になってきている。終了後に参道で売られている「おでん」を食べることで、弥彦神社のご利益にあずかっているだけでなく、会員間交流の一助になっている。こうした活動以外に独自の活動を行っている新潟支部では、消防署の協力を得て定期的に救命AED講習会を開催し、万が一の人命救助の際に備えている。上越支部では年1回、高齢者福祉施設を訪問し車椅子清掃を行っている。長時間の使用でタイヤやブレーキ付近などの細かい部品に汚れがこびりついており、1台1台ブラシや雑巾を使い丁寧に清掃させていた

だいている。

そんな新潟県代協は令和3年に60周年を迎えるにあたり、より活発な代協を創造するために会員一丸となって取り組んでいる。